令和4年度気象庁関係補正予算の概要

防災・減災、国土強靱化の推進

(年度) 2008

括し

調

ひまわり8号

ひまわり9号

衛星運用(PFI)

衛星打上げ 後継衛星 2010

H22

衛星製作

衛星製作

2011 2012 2013 2014

打上げ(8・9号一括調達)

地上設備製作等

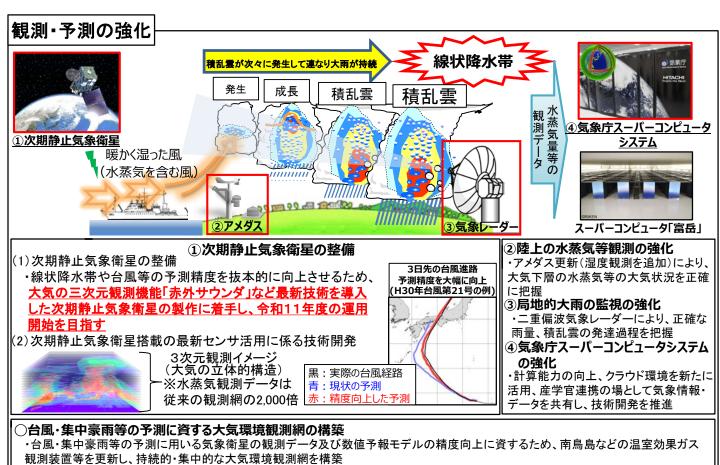
66. 389百万円

1. 線状降水帯の予測精度向上等に向けた取組の強化

65, 887百万円

(※一部についてデジタル庁ー括計上)

線状降水帯の予測精度向上を着実に推進し、予測精度を踏まえた防災気象情報を 段階的に改善するため、大気の3次元観測機能など最新技術を導入した次期静止気 象衛星等による観測の強化とともに、気象庁スーパーコンピュータの強化や予測技術 の開発等を早急に進める。



観測能力を大幅に強化した次期静止気象衛星等による水蒸気観測等の強化とともに、 気象庁スーパーコンピュータの強化や予測技術の開発等により予測を強化し、 防災気象情報の改善を段階的に実現

2015 2016 2017

衛星運用等

H27

2019

観測

待機

2020

後継衛星検討

2021

2023

後継衛星製作

待機

観測

R10

打上▲

待機

情報の改善 ・線状降水帯による大雨の可能性をお伝え 「明るいうちから早めの避難」・・・ 段階的に対象地域を狭めていく 令和3(2021)年 令和4(2022)年~ 令和6(2024)年~ 令和11(2029)年~ 線状降水帯の発生 6/1提供開始 次期静止気象衛星 をお知らせする情報 令和11年度 県単位で半日前 広域で半日前 市町村単位で危険度 運用開始 から予測 から予測 の把握が可能な危険 度分布形式の情報を **九州北部地方**では、 **熊本県**では、△日 半日前から提供 イメージ 未明から明け方に △日未明から明け 方にかけて線状降 かけて線状降水帯 水帯が発生して大 が発生して大雨災 線状降水帯の雨域 雨災害発生の危険 害発生の危険度が を楕円で表示 令和5(2023)年~ 令和8(2026)年~ 度が急激に高まる 急激に高まる可能 可能性があります。 性があります。 直前に予測 さらに前から予測 (30分前を目標) (2~3時間前を目標 「迫りくる危険から直ちに避難」・・・段階的に<u>予測時間</u>を延ばしていく - 線状降水帯の雨域を表示 ※具体的な情報発信のあり方や避難 計画等への活用方法について、情報

防災対応につなげていく

- 2. 地震・火山観測体制の強化
 - (1)地震観測施設の整備
 - (2)火山監視・観測用機器の整備

502百万円

の精度を踏まえつつ有識者等の意見

を踏まえ検討

イメージ

303百万円

199百万円

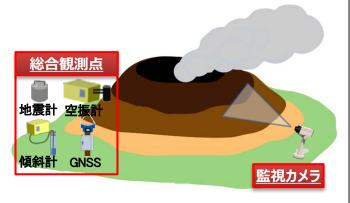
切迫化する南海トラフ地震等の大規模地震に対する緊急地震速報や津波警報、 震度情報等の発表に必要な地震観測体制や、噴火の兆候の把握や的確な噴火警報、 噴火速報等の発表に必要な火山観測体制の強化を進める。

「地震観測施設の整備 |

多機能型地震観測装置

- ①多機能型地震観測装置の整備
 - ・発生した地震の規模や震源の位置を 推定し、緊急地震速報や津波警報等 を発表
- ②震度観測装置の整備
 - 防災対応の開始のきっかけとなる 震度を観測し、震度情報を発表

「火山監視・観測用機器の整備」



- ①総合観測点の整備
- ・火山体及びその周辺の震動、地殻変動、 噴火による空気の振動を常に監視
- ②監視カメラの整備
 - ・噴煙や噴出物の状態の変化を常に監視